

あ と が き

町史編さん業務が、町政の話題となって採り上げられたのが、昭和四十年代当初でした。その後、種々の事情から五十年にようやく町史編さん室が発足し、三名の委員による本格的な編さん業務が開始されました。そして、計画として川辺町の古代から現代までを、通史編にまとめて刊行する予定としたのでした。

しかし、史料調査の段階で、貴重な古文書が日の目を見ることなく、いつの日か散逸してしまうことが惜しまれたのでした。このさい、町民の皆さんに文書史料を提示して祖先の生活に触れていただき、川辺町の歴史の理解を促すとともに、これら史料を転写し、記録として残すことは極めて重要と考え、予定を変更して史料編を刊行することとしたのでした。

史料の調査は川辺十一地区の区有文書を皮切りに、神社・寺院の所蔵文書、町内外の個人所蔵文書、町外の資料館・図書館・大学関係の所蔵文書と、しだいに範囲を広げ、その数量も一万点を越えるぼうだいなものとなったのでした。これら文書を解読しながら取捨選択し、史料編の記録の部・文書の部にと、そして通史編の参考史料として選別し、調査を進行したのでした。

しかしながら、編さん委員はいずれも余暇を利用した週二日の勤務体制から、調査は休日・夜間という時間的制約と、その後の人的異動もあって、かなりの年月を必要としました。それに、生活環境の急激な変化から既に史料が破棄されていたこと、さらに、価値の高いと考えられる所蔵文書が、閲覧の許可が得られなかったこと、近代史料を編集の関係から割愛し、次の機会に譲ったことなど、自制を余儀なくさせられたこともありました。これらのことから、五十七年以降は二名の委員による常勤体制をとり、業務の恒常化をはかって鋭意編集業務に励んで、五十九年に史料

編上巻を、そして今回同下巻の発刊を促進することができたのでした。

調査のため、再三にわたって東京・大阪・名古屋・岐阜など東奔西走を繰り返しながら、これら町内外の史料によって、川辺町の歴史の新事実が次々に発見できたこと、史料の一つ一つにも祖先の生活対応や、物の考え方が表われていて順次解明されたことなどは、極めて肝要な事柄でした。しかしながら、史料編は読物としては難解であります。決して親しみやすいものではありませんが、祖先が残した生活記録を集大成したものが史料編であり、当時の人びとの生活を知る上で、重要な史料となるものであります。その意義や価値を明らかにすることは、私どもの責務であると考えられます。そのため、各項目にわたって総解説を付して説明し、また、史料一点ごとにミニ解説ともいえるべき概要を記載して、できるだけ親しみやすくするよう努めました。

この史料編下巻を踏まえて、引き続き通史編を発刊する予定ですが、本書刊行にあたり、町外並びに各地区町民のかたがたから、数多くの史料の提供がありましたことを、改めて感謝いたします。また、史料収集・解読・編集にさいし、徳川林政史研究所・神奈川大学・蓬左文庫・岐阜大学・岐阜県歴史資料館・岐阜県立図書館のご指導・ご助言、あるいは史料のご紹介を賜りましたので、厚くお礼申し上げます。さらに、本書印刷にあたり、献身的な奉仕をされました共同印刷株式会社に対しても、深く謝意を表します。

昭和六十三年十月

町史編さん室 木下尚年

町史編さん協力員

文化財保護審議会委員

田原耕作 井内日進 佐伯泉 伊藤克文

文化財保護委員会委員

木下澪 奥村正 岡本穰 井戸金之丞 矢嶋弓男 加藤栄樹 篠田日一 白村正市
村上正 小森静樹 林真一 赤坂孝平 佐藤恭一 佐伯馨三

川辺郷土史研究クラブ会員

井戸喜一（文化財保護審議会委員）

若井令一（文化財保護委員会委員）

紅谷 茂（同）

高井嘉治（同）

加藤時夫 高橋美智夫 井戸義勝 井戸喜男 若井国光 馬場巖

矢田元雄 加藤実夫 大倉法念 飯田三千男

町史編さん室

木下尚年（文化財保護審議会委員）

垣下博子